



表態文字としてのひらがな

野口尚子  
印刷の余白Lab.

ちんちんは

なぜちんちんよ書けるのか

安

機能面：筆と紙 筆記速度  
精神面：外→内 公→私

書き崩す＝動作を省略

あ

省略された動作の軌跡

# 省略された動作の軌跡

が、連綿とつながることで、

ものごとの状態や動きを表現・内包できる  
(無意識のうちにしている) んじゃないだろうか？

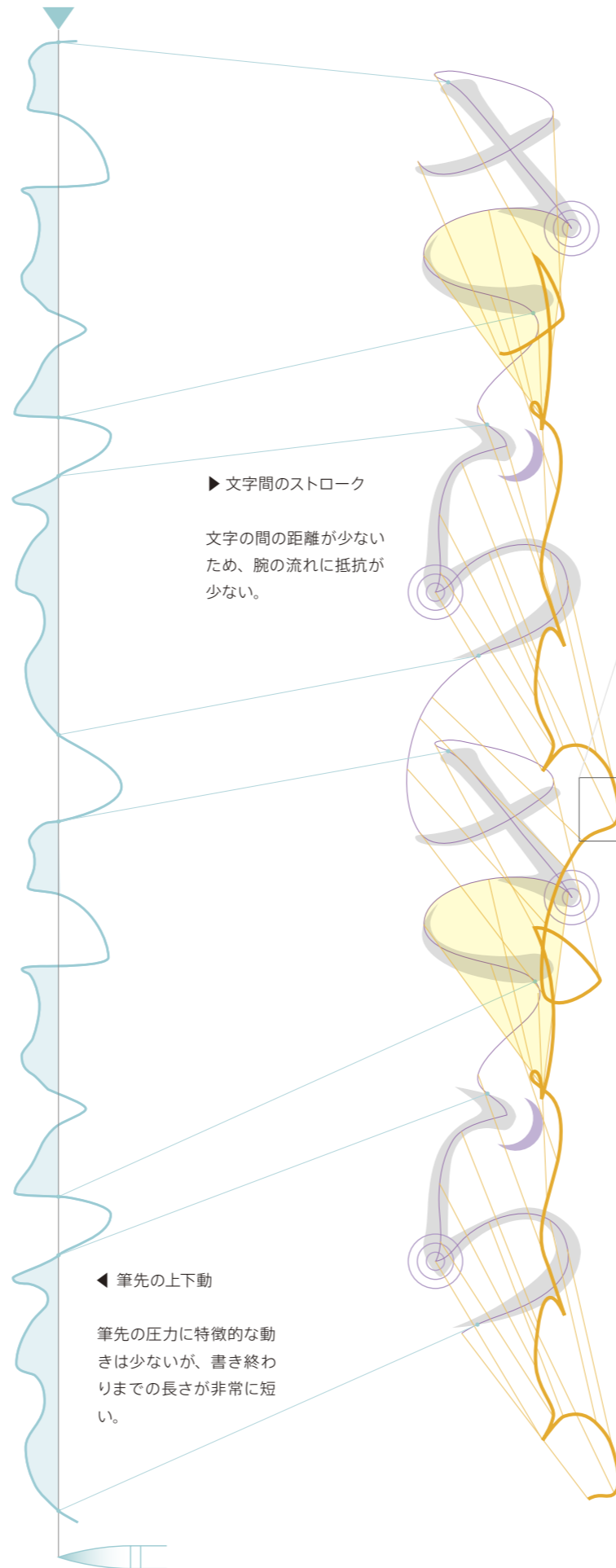


## 表“態”文字

モロモロ

モロモロ

- ◎ 切り返し
- ループ
- ☾ 浅く入り浅く抜ける

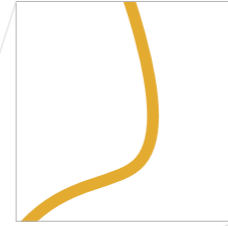


▶ 文字間のストローク  
文字の間の距離が少ないため、腕の流れに抵抗が少ない。

◀ 筆先の上下動  
筆先の圧力に特徴的な動きは少ないが、書き終わりまでの長さが非常に短い。

▼ カーブ後半のコーナー

「ら・ち・わ」など、右へ大きくカーブする文字を書くとき、カーブ後半で起こる肘の特徴的な動き。指先と運動していたカーブが止まり、指先を先に流してから移動するため、四角のコーナーを描いたような形になる。



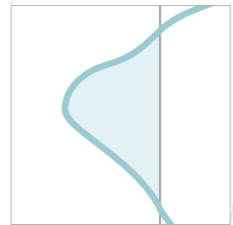
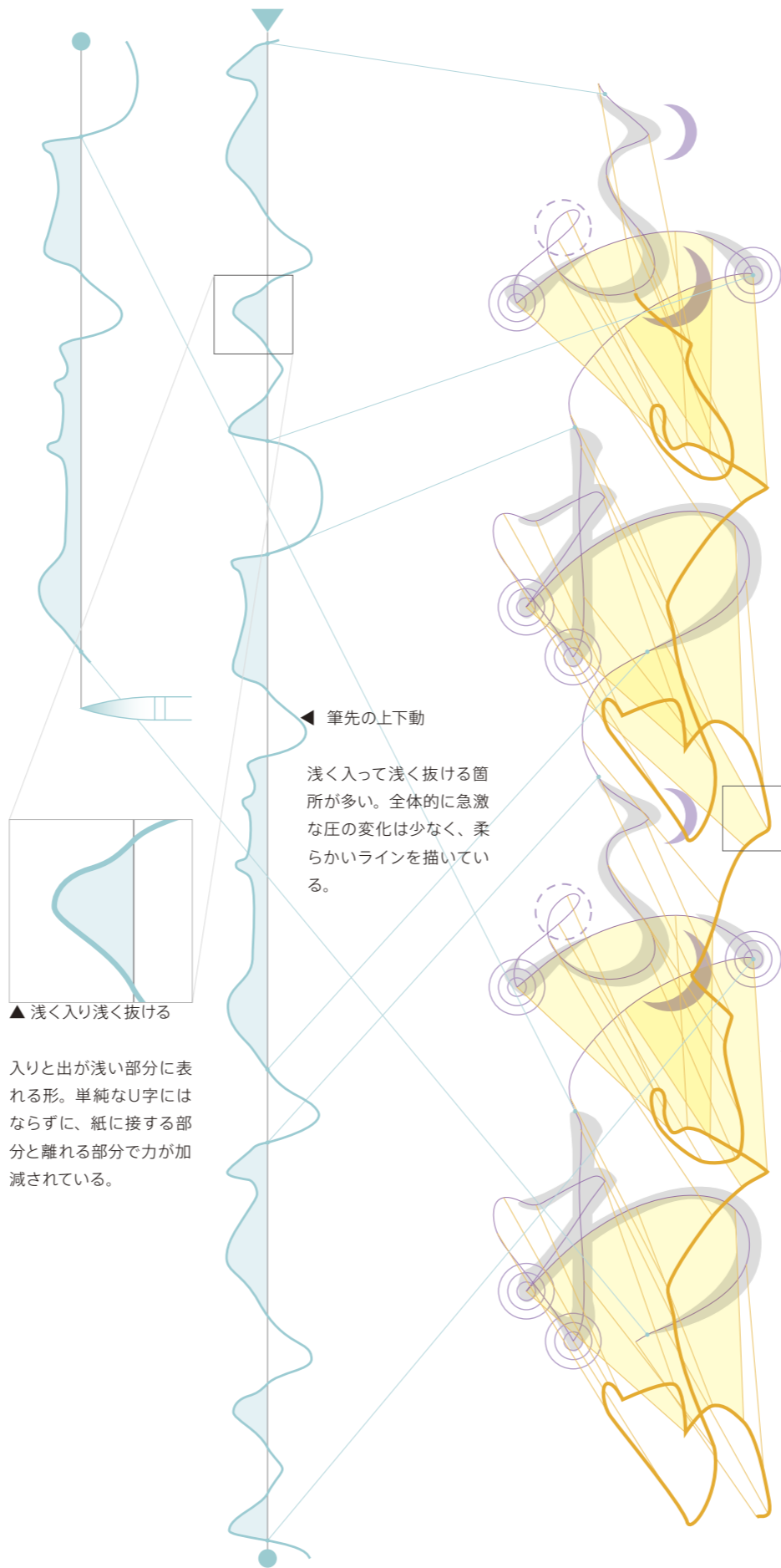
▼ 指先の流れ



▼ 肘の流れ



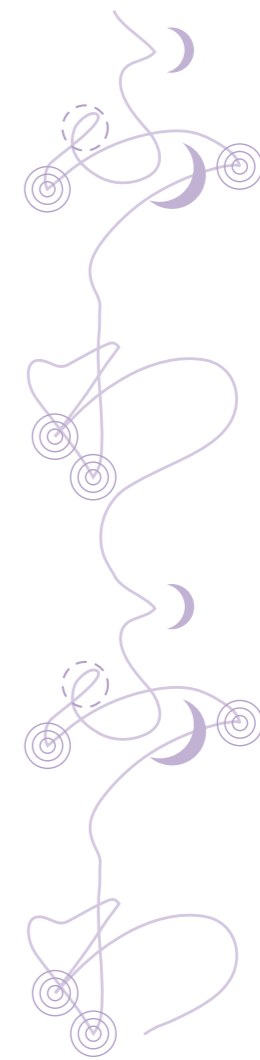
- ◎ 切り返し
- (点線) ループ
- ☾ 浅く入り浅く抜ける



▲ 浅く入り浅く抜ける

入りと出が浅い部分に表れる形。単純なU字にはならず、紙に接する部分と離れる部分で力が加減されている。

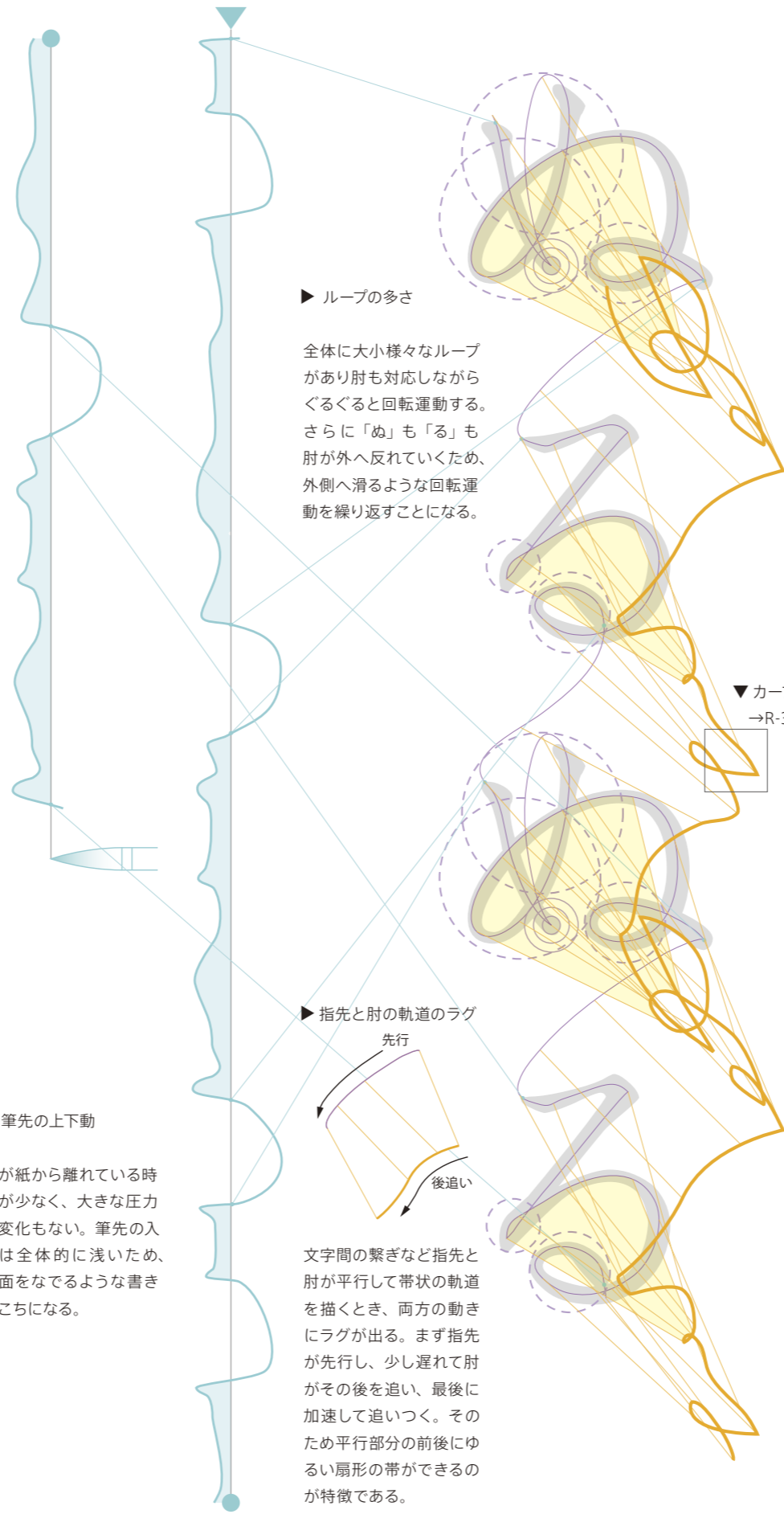
▼ 指先の流れ



▼ 肘の流れ



- ◎ くり返し
- ループ
- ☾ 浅く入り浅く抜ける



▶ ループの多さ

全体に大小様々なループがあり肘も対応しながらぐるぐると回転運動する。さらに「ぬ」も「る」も肘が外へ反れていくため、外側へ滑るような回転運動を繰り返すことになる。

▶ 指先と肘の軌道のラグ



文字間の繋ぎなど指先と肘が平行して帯状の軌道を描くとき、両方の動きにラグが出る。まず指先が先行し、少し遅れて肘がその後を追う、最後に加速して追いつく。そのため平行部分の前後にゆるい扇形の帯ができるのが特徴である。

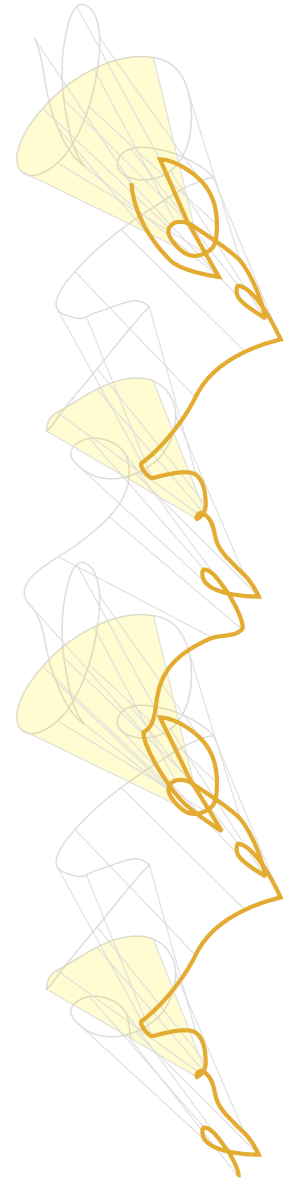
▶ 筆先の上下動

筆が紙から離れている時間が少なく、大きな圧力の変化もない。筆先の入りは全体的に浅いため、表面をなでるような書きごちになる。

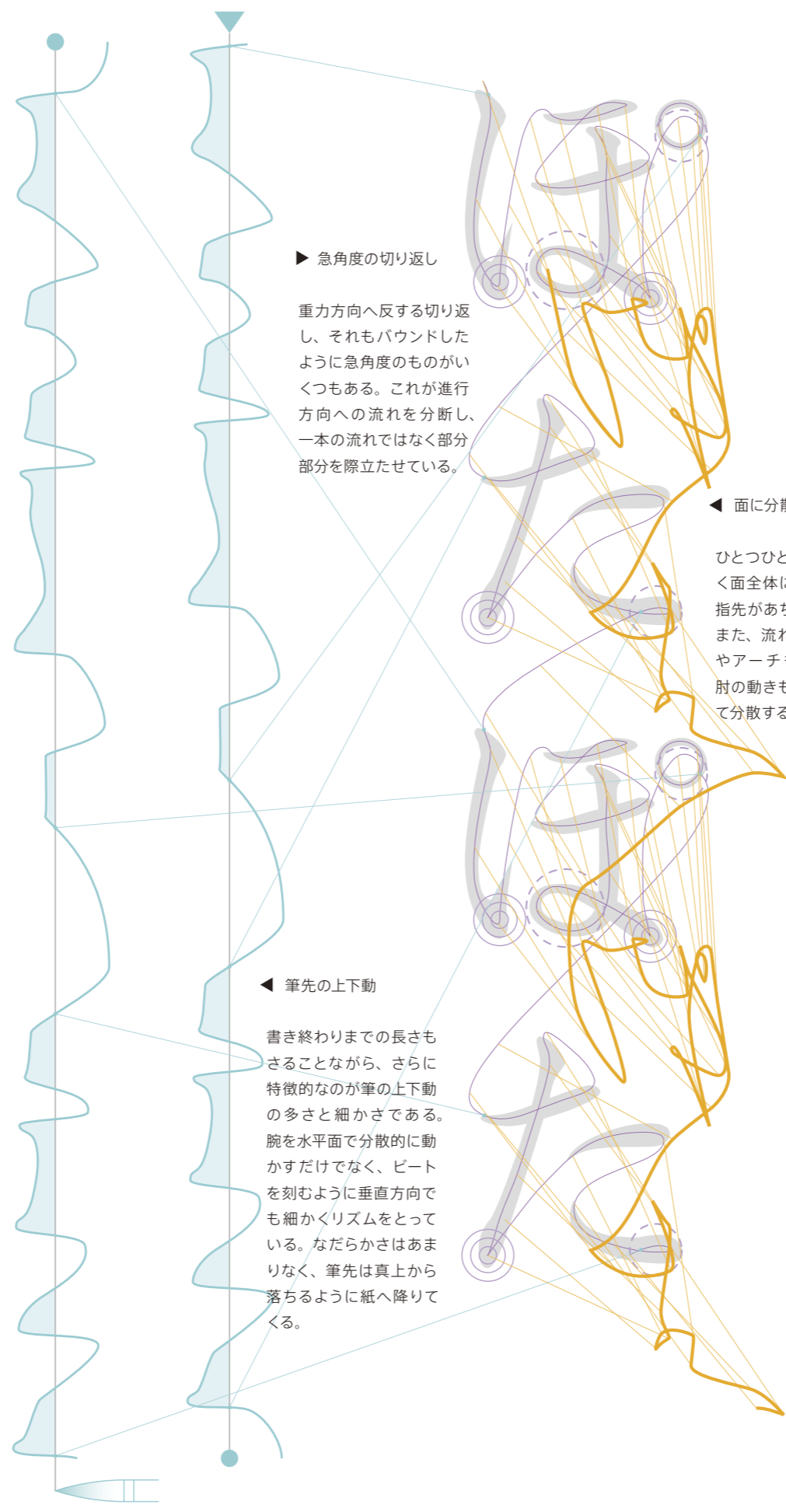
▼ 指先の流れ



▼ 肘の流れ



- ◎ 繰り返し
- (点線) ループ
- ☾ 浅く入り浅く抜ける



▶ 急角度の繰り返し

重力方向へ反する繰り返し、それもバウンドしたように急角度のものがいくつもある。これが進行方向への流れを分断し、一本の流れではなく部分部分を際立たせている。

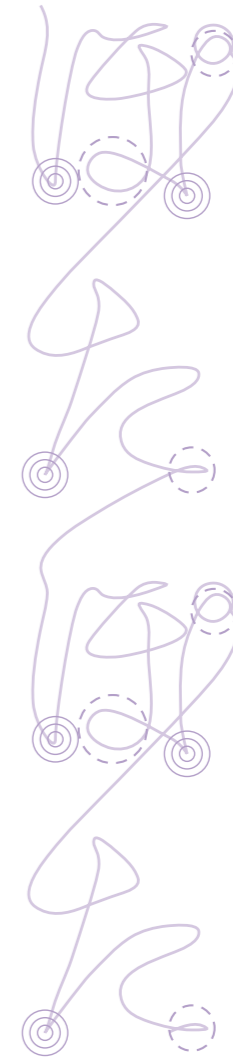
◀ 面に分散する筆致

ひとつひとつの筆画が短く面全体に分散しており、指先があちこち移動する。また、流れを繋ぐループやアーチも少ないため、肘の動きも指先に連動して分散する。

◀ 筆先の上下動

書き終わりまでの長さもさることながら、さらに特徴的なのが筆の上下動の多さと細かさである。腕を水平面で分散的に動かすだけでなく、ピートを刻むように垂直方向でも細かくリズムをとっている。なだらかさはあまりなく、筆先は真上から落ちるように紙へ降りてくる。

▼ 指先の流れ



▼ 肘の流れ

